

平成25年度 調査研究事業

(1) 在宅介護実態調査

神戸市医師会に委託して、神戸市医師会員が主治医として診察している在宅長期寝たきり者について、次のとおり実態調査を行った。

ア. 回答集計

在宅長期寝たきり者（平成25年 7月1日現在、6か月以上寝たきり者）

総 数 1,819人（男性 609人、女性1,205人、不明 5人）

（平均年齢 81.7歳（男性77.5歳、女性83.8歳））

イ. 医療の対象である主たる病名

① 脳梗塞及び脳出血後遺症・脳血管障害	414人（22.8%）
② 高血圧症・心疾患	236人（13.0%）
③ 認知症	180人（9.9%）

ウ. 「寝たきり」の原因となった主たる病名

① 脳梗塞及び脳出血後遺症・脳血管障害	456人（25.1%）
② 廃用性症候群	331人（18.2%）
③ 変形性関節症による運動障害	230人（12.6%）

エ. 在宅で行っている医療行為（複数回答可）

① 胃瘻（空腸瘻含む）による経管栄養	190人（10.4%）
② 褥瘡などの創傷処置	164人（9.0%）
③ 尿道留置カテーテル	160人（8.8%）
④ リハビリなどの機能訓練	144人（7.9%）

オ. 医学的見地から、より充実させるべき医療行為（複数回答可）

① 入院のための病診連携	503人（27.7%）
② 訪問リハビリテーション	492人（27.0%）
③ 訪問看護	367人（20.2%）
④ 緊急時往診体制	322人（17.7%）

カ. 患者が利用している介護サービスの種類（複数回答可）

① 訪問看護	942人（51.8%）
② 訪問介護（ホームヘルパー）	789人（43.4%）
② 福祉用具貸与	789人（43.4%）

キ. 現状で不足していると思われるサービスの種類 (複数回答可)

① なし	877人 (48.2%)
② 短期入所療養介護 (ショートステイ)	268人 (14.7%)
③ 訪問リハビリテーション	215人 (11.8%)
④ 訪問介護 (ホームヘルパー)	144人 (7.9%)
⑤ 訪問看護	120人 (6.6%)

ク. 主として介護している人

① 子供 (女)	463人 (25.5%)
② 配偶者 (女)	357人 (19.6%)
③ 親族以外の人 (女)	237人 (13.0%)
④ 子供 (男)	217人 (11.9%)

(2) 神戸リハビリテーション病院退院患者調査

病院退院先の推移

(単位:人)

年度	退院患者数	家庭	病院	老人保健施設	老人福祉施設	その他
20	636	426	110	96	2	2
21	663	432	109	107	4	11
22	703	462	116	103	2	20
23	687	453	112	107	4	11
24	657	444	112	87	0	14
25	658	441	117	74	3	23

(3) 神戸リハビリテーション病院入院患者の口腔調査研究

神戸市歯科医師会に委託し、平成25年度に歯科治療を受けた神戸リハビリテーション病院入院患者のうち、脳血管障害患者26人(男性11人、女性15人)を対象に唾液量測定など口腔衛生管理についての調査研究を実施した。

(単位:人)

回答総数	性別		年齢							障害名(重複回答)					食事の形態				
	男性	女性	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代	左片麻痺	右片麻痺	失語症	四肢麻痺	その他麻痺	その他	普通食	さざみ食	軟食	流動食
26	11	15	1	1	0	3	12	9	-	10	2	1	1	-	12	24	2	-	-
	食事の摂取方法																		
	自力	一部介助	全面介助	経管栄養	不明														
	26	-	-	-	-														

ア. 唾液量測定結果

全症例の平均唾液量は1.59mlであり、最低0.5ml、最高3.09mlであった。

①性別	男性1.98ml、女性1.30ml
②年齢別	30歳代2.55ml、40歳代1.69ml、60歳代1.67ml 70歳代1.76ml、80歳代1.22ml
③障害別	左片麻痺1.70ml、右片麻痺2.33ml、麻痺なし1.34ml
④麻痺程度別	軽度1.66ml、中等度1.97ml、麻痺なし1.35ml
⑤服用薬剤数	4種類以下1.19ml、5種類以上1.77ml
⑥食事形態別	普通食1.54ml、きざみ食2.09ml
⑦摂食方法別	自力のみ。平均1.59ml
⑧残存歯数別	20歯以上1.82ml、20歯未満1.27ml
⑨義歯の装着の有無別	有りが1.48ml、無しが1.7ml

イ. 考察

これまでにわたる唾液検査の総サンプルは258例を数えた。

- ①唾液分泌量は、女性より男性の方がやや多かった。(全サンプル平均は1.70ml)
- ②唾液の分泌量は、70歳以上の方より70歳未満の方の方が多かった。
- ③唾液分泌量は、軽度麻痺患者の方が中程度患者より多かった。唾液の分泌量が上昇する要因として、咀嚼による唾液腺への刺激が考えられるが、麻痺なし患者の値が意外にも低かった。
- ④左片麻痺、四肢麻痺の患者の唾液の分泌量は、平均分泌量以上となっており、右麻痺患者もほぼ平均値に近い結果となっている。麻痺なしの患者の値が平均分泌量を下回っている。麻痺があると代償作用として唾液分泌量が多くなるのかもしれない。
- ⑤唾液分泌量は、基礎疾患なしの患者の方が基礎疾患ありの患者より少なかった。④同様に代償作用が考えられる。
- ⑥服用薬剤の投与が4種類以下の患者では、唾液の分泌量が平均値を上回った。一方で、5種類以上を投与している患者ではやや分泌量の低下が認められた。